

I C T 授業活用教育実践

対 象	特別支援【小学部4年生】
教 科	図画工作
単 元	3D塗り絵
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの塗り絵がテレビで動き出す所を見せることで、制作意欲を高める。 ・アプリのプログラムによって起こる塗り絵の変化を実感し、みんなで感動して作品を鑑賞し合い、児童の自信につなげる。
I C T環境 (授業で使った機器)	iPad 大型テレビ Apple TV
利用したデジタル教材 (アプリ、サイトのアドレス、資料など)	<p>iPad アプリ「colAR Mix」 (専用HPからPDF形式でダウンロードした鳥や飛行機などの塗り絵をタブレット端末のカメラで取り込むことで、3D化して画面上で動き出す)</p> <p>https://itunes.apple.com/us/app/colar-mix/id650645305?mt=8&ign-mpt=uo%3D4</p>
授業での I C T 機器の活用方法と手順	<ol style="list-style-type: none"> ①導入で平面の塗り絵がテレビ(3D)で動く様子を見る。 ②各自塗り絵を行う。専用HPからダウンロードした台紙から好きな物を選び、作品が動き出す期待感を話しながら、枠線などが塗りつぶされない画材(色鉛筆や蛍光ペン)で塗り絵をする。 ③「colAR Mix」を起動し、作品がテレビで立体映像として動くところを鑑賞する。自分の作品と映し出された映像との色の関連に気付かせる。友達の作品も期待感をもって見る。
授業の工夫(ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの好みに応じて、様々な種類(乗り物、蝶、恐竜など)から塗り絵が選べるように、専用HPから台紙をダウンロードしておく。 ・タブレット端末のカメラを児童に向けることで、3D塗り絵と一緒に作者が画面に映ることが可能になり、より喜びが増す。 ・自分の作品が、動き出す感動を共有して鑑賞し合うことで、互いの作品を認め合い児童の自信につなげる。
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・導入部分で参考作品がテレビで動く様子を見せると、多くの児童に驚きの表情と笑顔が見られた。そして「塗りたい!」という発言があった。 ・塗り絵に自信がなかった児童も、自分の作品が動き出すと「すごい、できた。」と喜んでいた。

実践例

配当時間		学習の進め方	指導のポイント
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標の確認 塗り絵の鑑賞方法の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 塗り絵を行うことを伝える。 参考例を iPad で取り込む。 AirPlay を利用して大型テレビに映しながら、3D化した塗り絵を動かす。
展開	25分	<ul style="list-style-type: none"> 各自、色塗りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 専用HPからダウンロードした塗り絵の台紙から好きなものを選ぶ。 色鉛筆や蛍光ペンといった枠線が塗りつぶされないような画材で塗る。 背景なども立体化されることがあるので、丁寧に塗る。 台紙が破れないように注意する。（破れた場合、取り込みが不可になることがある）
		<ul style="list-style-type: none"> 早くできた児童から、2枚目も認める。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間内に終わるように伝える。 終了時間に近づいたら AirPlay で、早くできた作品から順番に iPad でテレビに映す。
まとめ	15分	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品を鑑賞する。 工夫点、友達の作品の良かった所などを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自の完成した塗り絵を iPad で取り込み、3D化した作品を動かす。下から見上げたり、横から見たりして変化を楽しむ。 よかった点を互いに認め合えるよう促す。

評価

児童について	児童の興味・関心	導入部分で、塗り絵がテレビで動き出すと、ほとんどの児童が歓声をあげ、興味・関心が高まった様子だった。
	児童の理解	参考例を見ることで、iPad で取り込んだ塗り絵が動き出すことが理解でき、積極的に取り組むことができた。
	児童の情報機器の活用度	AR（拡張現実）技術を理解することは難しく、取り込み操作も指導者が行ったが、塗り絵の鑑賞においては情報機器の活用が十分できた。
授業について	事前準備の難易度	専用HPから塗り絵の台紙をダウンロードして、印刷しておく必要がある。また児童の実態に合わせて幾つか種類を用意したい。
	指導者にとっての授業展開の難易度	タブレット端末のカメラ操作に慣れていれば授業展開が滞りなく行える。
	授業の「ねらい」の設定は適切であったか	意欲的に塗り絵を行う姿や目を輝かせて友達の作品を鑑賞する様子が見られたので、「ねらい」の設定は適切であった。
	効果的な指導方法であったか	創作意欲を高めるツールとしてはかなり効果的であった。また大画面で、音声を出しながら作品が動き出すことで、鑑賞時にとっても注目しやすかった。
<p><実践の感想及び反省点等></p> <ul style="list-style-type: none"> 予想以上に児童が意欲的に楽しそうに活動できた。 テレビで鑑賞することに意識が行き過ぎ、塗り絵自体の指導をおろそかにしないようにしたい。 		